

## 行こう行こうと思っていた所へ行ってみる

行こう行こうと思っているんだけど、なかなか行かない所ってないですか？個人的には、行こうと思えばいつでも行ける近場にそういうところが多いようです。今月は、いつか行こうとっていて、その気になればすぐに行けるのに今まで行かなかった所へ思い切って行ってみました！皆さんにも身近なところですよ。

### 二子新地

二子新地です。大阪の北新地、曾根崎新地、飛田新地（わかる人にはわかる）と同じ〇〇新地の新地です。新地とは、居住地や商業地として新しく拓かれた土地のことを指し、歴史的には、新地開拓後の繁栄策として遊郭などができたことも多かったことから、転じて遊郭や遊里の多い場所を指すこともあります。

かつて、江戸幕府が江戸護衛の最前線と位置付けていた多摩川には架橋が制限されていたため、長く渡船「二子の渡し」が兩岸の大山街道を連絡していました。しかし、時代が流れ、ここに橋が架けられることとなった際、この付近一帯には街道宿が数軒立地していたほかは静かな田園地帯であり、かつ繁華街がなかったため、役人接待のために芸者を呼び、歓楽街が開かれ、そこから「二子新地」と呼ばれるようになりました。しかし、時が流れて歓楽街は姿を消し、二子新地が三業地として華やいた時代の面影を21世紀の現在に伝えるように、当時から民家が建ち並んでいた地域のほぼ全域に「二子三業組合」の銘板が配された街灯柱が建てられ、今も町内を明るく照らし続けています。また、その経緯ゆえか、当駅周辺には居酒屋が多く立地し、近隣には料亭もいくつか残っており、往時を偲ばせます。今回は大山道を高津まで歩いてみました。



二子橋の旧欄干です。二子橋の完成は大正14年。それまでは徒歩船、馬船で渡っていました。徒歩船っておんぶして渡ったの？



二子神社。これといった塀もなく逆に土地に根付いている感があります。左手奥には出世稲荷があります。昔は料亭で遊んだ後、ここへお参りしてさらに上を目指したのでしょうか



岡本かの子文学碑



二子神社の境内に1962年に建てられたこのモニュメントは、岡本太郎が本体を、丹下健三が台座と築山設計しました。二子玉川駅のホームからも見え、前から気になっていたのでもっとホッとしました。この碑は岡本太郎が父一平と母かの子がこよなく愛したこの地を懐かしみ太郎本人が「誇り」と命名しました。個人的にはやっぱり岡本太郎作だったか、です。



二子新地駅周辺が三業地として華やいた時代の面影を21世紀の現在に伝えるように、当時から民家が建ち並んでいた地域のほぼ全域に「二子三業組合」の銘板が配された街灯柱が建てられており、今も町内を明るく照らし続けています。また、その経緯ゆえか、駅周辺には居酒屋が多く立地し、近隣には料亭もいくつか残っていて、往時を偲ばせます。神社の境内には歴史を感じさせる、というか傾いた「二子三業組合」の銘板のある街灯があります。因みに三業地とは、料亭、芸者置屋、待合の三つの営業を持った地帯、街のことです。性風俗業はなされない地域のことを言います。

### \* てくたく刀サッチ#3「真福寺」 \*

真福寺は、今から約400年前に創建されたといわれ、大山道に山門があって赤く塗ってあったので「赤門寺」とも呼ばれていました。ご本尊は大日如来で、開山は宗円和尚、開基した人は飯田図書という人です。明治時代、京西小学校が台風で壊れてしまったとき、本堂が仮校舎として使われたそうです。用賀という地名は鎌倉時代初期に勢田郷に瑜伽（梵語：ユガ）の修験道場が開設され、後に真福寺の所有となったことからこの梵語「瑜伽：ユガ」がヨーガの地名となったといわれています。用賀商店街ではそれにちなんで「ヨーガでユガ」教室も開催されています。





# 大山道沿い

大山道沿いにも歴史を感じさせるものやおおっと思わせるものが数多くあります。ここでは代表的？なポイントをご紹介します。

## 五右衛門風呂

## 田中呉服店

## 国本田独歩碑



大山道でひと際目立っているのがこれ飯島金物店さんの店先に鎮座します大釜。なんとこの釜、1978年にNHKの大河ドラマ「黄金の日々」の中で、根津甚八扮する石川五右衛門が釜茹での刑に処せられたときに使われたモノ。これぞホントの五右衛門風呂。釜茹では嫌ですが、風呂として使用したら楽に大人3~4人は入れそうです。お庭におひとついかがですか？



思わず「おおっ！」と、声を上げてしまう存在感。田中呉服店さんは明治に建築された代表的な「蔵造り」のお店。重い瓦屋根と土の壁、母屋との境は厚い土戸。2階には頑丈な格子窓。防火、防犯など蔵の特徴を活かした重厚な店構えは見る人を圧倒します。昔は大山道沿いにこのようなお店がズラッと並んでいたのですね。後世に建築技術を伝承させるためにも可能な限り残してほしいものです。



高津図書館の入口にあります。明治30年みぞれまじりの春の日に、独歩が溝口を訪れたとき当時旅館だった亀屋に一泊しました。このことは独歩の「忘れ得ぬ人々」のモデルとなりこの作品で独歩は文壇に不動の地位を築きました。独歩と亀屋の関係を記念するために昭和9年この碑が建ちました。題字は島崎藤村です。

# 産みたてもあります

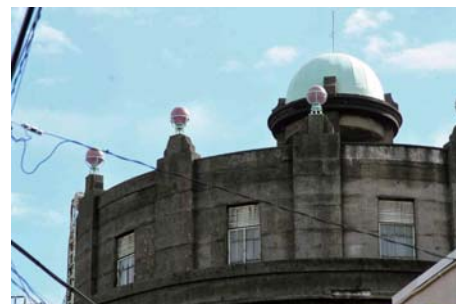
駅を挟んで反対側、駅前通り松栄会をずっと行ったところに無人販売所があります。売っているのはなんと産みたての卵や野菜。卵にはビックリです。



かつて、二子新地に卵の自販機があると聞いていたので、商店街から続く住宅街を歩いていると、自販機はなくなっていました。ご自宅のガレージで卵を販売しているのを発見！茹でたて、揚げたて、作りたて、採れたてに目が無い私としては、産みたての文字に反応しないわけがありません。早速、購入。6個で100円という信じられない値段で大興奮。プリプリの黄身と弾力のある白身に感激しました。生でごっくん、親子丼でガッツリ、産みたてを堪能しました。

# 駒沢給水塔

弦巻の駒沢給水塔も行こう行こうと思っていた場所。歴史的建造物についてご対面！と思いきや、ガードが堅くちょっと残念。毎年10月1日に保存会の方による見学会があるそうなので、来年は是非参加しようと思います。



大正13年3月に全工事が完了した駒沢給水所は、西欧の中世風の趣きを持ち、独特な意匠を施した2基の巨大な塔が印象的です。高さ30メートルの塔屋には王冠を連想させる装飾電球が付けられ、軽やかな特徴あるトラス橋で両塔が結ばれているこの独特な設計は、かつて、江戸川乱歩が怪人二十面相のアジトのモデルにしたというもうなずけます。普段は中に入ることができず、住宅の間からその姿を眺めることとなります。平成24年度には、土木学会選奨土木遺産として都内で唯一認定されました。

